

## 「山間部における超短波放送の難聴解消のための 周波数有効利用技術に関する調査検討会」 開催趣旨（案）

放送は、今日、国民生活に密着した情報提供手段となっていますが、とりわけ、ラジオは、東日本大震災などの大きな災害時に「第一情報提供者」としていち早く災害情報を地域住民に提供し、地域住民の方々の安全・安心を確保する重要な役割を果たしました。

ラジオの周波数は、地表波が山岳等を越える際に減衰するため、受信に必要な電界強度が確保できず、良好な受信が困難となるため、山間部や離島等の地理的・地形的な要因による難聴が課題となっているほか、災害時のバックアップ回線の確保など、ラジオ放送のネットワークの強靱化が必要となっています。

さらにコミュニティ放送は、平時には地域の生活情報、災害発生時には被災情報、避難情報といった情報を提供しており、市町村合併等により、拡大した地域にも同様の情報を提供することが必要となっており、放送区域の拡大や受信状況の改善に対する期待が大きいものとなっています。

このような状況から、山間部に集落が点在する地域において、76MHzから90MHzの周波数帯を使用する超短波放送（以下「FM」という。）の放送区域の確保と改善を図るため、FMの放送局の送信所までの番組伝送等を実線で行う技術（STL技術）に関して、調査検討を行うことで、地域の難聴解消とともに放送事業者等の負担軽減を図り、周波数を有効利用するための方策、技術的条件の策定に資することを目的に行うものです。